

第1分科会「八千代の里山を語る」

里山保全の意義と先進自治体の施策を学ぶ。
また八千代市の現状を把握し、市民団体・行政・土地所有者の連携を図る。

日 時：2007年3月31日（土）13:00～16:40

場 所：八千代市郷土博物館学習室

参加者：37名

趣 旨

里山・谷津を保全するために、意義と先進的に取り組みを進めている自治体の施策を学び、八千代市の現状を把握し、市内で活動している市民団体・行政・土地所有者（農家）間の情報交換と連携を図るためにおこなう。



内 容

講演1

里山の現状と活かし方 講師 金親博榮氏（ちば里山センター会長、谷当グリーンクラブ代表）

県内には特徴ある森林が地域ごとに存在。里山は条例で、「人が日常的に営んでいる地域に隣接し維持管理されてきた一団の樹林地または樹林地と一体となった草地・湿地・水辺」と規定。

県内の森林・農地は30年間で5万ha減少。

要因は

- ① 宅敷地化
- ② その他の建物敷地化
- ③ ゴルフ場
- ④ 鉱工業施設等。

里山荒廃の原因は、

- ① 農業の低迷
- ② 農業者の減少と耕作放棄地の増加
- ③ 産業廃棄物の不法投棄等により里山が荒廃。

八千代市でも田・畑・山林の面積は14年間で28%も減少。要因は宅地開発で、人口は1.32倍に。県は里山条例を制定し里山の機能を積極的評価。

里山活動協定の締結及び認定は年々増加。千葉里山センターでは土地所有者や市民団体への登録・情報提供・ネットワーク構築を推進。

地域住民の主体的な活動の展開、土地所有者の理解と協力、市町村の関与により、美しい里山（他に誇れる地域環境）の再生、生き活きとした地域社会の実現ができる。



講演2

「千葉市における谷津・里山保全の取り組み」 講師 斉藤久芳氏（千葉市環境局環境保全部環境保全推進課）
千葉市では、市街化区域及びその縁辺部の樹林を「街山」、市街化調整区域の樹林地を「里山」、市街化調整区域の田及び周辺樹林地等を「谷津田」と呼び、担当部署を決め保全の取り組んでいる。

- ① 「大草谷津田いきもの里」事業については、若葉区大草町・北谷津町の大草谷津及び周辺樹林26haの整備である。短期的目標として「ホタルやメダカと共に暮らす里づくり」、長期的目標として「コウノトリと共生する里づくり」を掲げている。運営は、地元管理組合の活動と育む会の5部会（田・森づくり、生物環境、学

校活動、広報、谷津学校)で実施している。地主からの借り上げ期間は5年(更新可)で、奨励金は年額10円/m²。

- ②「谷津田等の保全区域」は16か所を対象。所有者と協定締結→地権者と市民団体の活動協定締結→締結団体による保全活動 借り上げ期間は5年(更新可)奨励金は年額10円/m²。

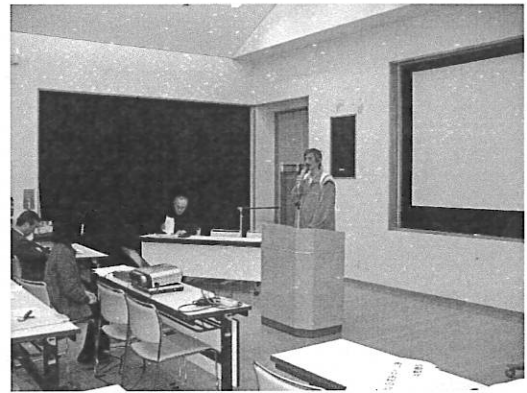
報告1

「西八千代北部特定土地区画整理事業の現状について」 報告

者 八千代市都市整備課長

市民団体の活動を紹介

- ①神谷津の四季を楽しむ会
- ②NPO子どもの文化ネットワーク・ソレイユ
- ③ほたるの里づくり実行委員会
- ④街づくり実行委員会
- ⑤千年の森「森の学校」
- ⑥NPO八千代オイコス
- ⑦八千代自然と環境を考える会



報告2

東葉高速鉄道八千代緑が丘駅の北西部に広がる面積140haの事業。平成14年に認可を受けたが、関係機関や地権者との協議の中で土地利用計画の変更が必要となり、現在見直し作業を行っている。



まとめ

環境問題を取り組む市民団体と行政が参加し、意義や先進自治体の例の学習や市民団体の活動の情報交換をおこなうことができた。今後、環境問題を取り組む団体は数が増えており、より多くの団体が参加できる場にしていく必要がある。農業関係者の参加はなかったのでより働きかけをする必要がある。行政の中での「里山保全」に関する部署の協議を進めていく必要がある。